Aichi University
Lingua
INSTITUTE FOR LANGUAGE EDUCATION, AICHI UNIVERSITY
No.14 July 2019

2019年フランスセミナーでの修了パーティーにて
（2019年3月1日　オルレアン大学別館で撮影）

CONTENTS

Global Lounge in Nagoya			2～5
Language Center in Toyohashi & Language Café			6～7
留学体験			
・ハワイ大学短期語学研修での経験	短期大学部2年	木村　文音	8～9
・オーストラリア留学体験記	文学部3年	北本　早絵	9
・カナダでの経験	国際コミュニケーション学部2年	尾嵜　康平	10
・ハンザ都市・ブレーメン	文学部4年	小林　裕之	11
・充実したフランスセミナー	国際コミュニケーション学部3年	中川　桜	12
江蘇杯中国語スピーチコンテスト	現代中国学部	藤森　猛	13
・自分を成長させてくれた江蘇杯中国語スピーチコンテスト	現代中国学部3年	浅井　皐	14
ことばの旅―「自由」という語について（補）	経済学部	葛谷　登	15
2018年度（第24回）名古屋外国語コンテスト結果報告			18
2019年度外国語検定試験奨励金のご案内・編集後記			20

Global Lounge in Nagoya

名古屋キャンパス（厚生棟 4F）　開室時間　平日９：00 ～ 19：00

名古屋キャンパス厚生棟５階に、愛大にいながらにして海外を感じられる場所グローバルラウンジがあることは、ご存知でしょうか？１年生のオリエンテーションで訪れた人もいるかもしれませんね。しかし講義棟から一歩足を延ばしたグローバルラウンジに行くまでの距離が遠く、敷居が高いと感じている人も多いのではないでしょうか。ぜひグローバルラウンジの魅力を知っていただきたく、担当の日比菜月さんにお話を伺いました。

Q．グローバルラウンジというのは、どういった場所なのでしょうか？

A．グローバルラウンジは、学生の外国語能力の向上や、学生間および学生と教員の異文化・理解促進を目指して 2017年４月に開室しました。外国語による発信力やプレゼンテーション能力の養成も目的としています。キャンパスにいながら、外国人教員や海外からの留学生との交流を通して、異文化体験を経験できる場所となっています。具体的には、民間から派遣されたネイティブ教員による有料の英語レッスンと、愛大の教員による英語・中国語・フランス語のフリートーク（無料）の２タイプの授業を開講しています。またフリースペースが多いので、留学生と愛大生の交流の場としても利用できます。

Q．グローバルラウンジでは、フリースペースの利用以外にも外国語の授業を受けることができるのですね。グローバルラウンジで開講されている有料授業と無料授業について、詳しく教えてください。

A．有料授業には、キャリア開発講座室担当による「毎日楽しくキャンパス留学」という初級者向けのコースと、国際交流課担当の「グローバルリーダー育成プログラム」という中・上級者向けの２種類の英語のプログラムがあります。いずれも毎日授業を受けることになり、年間で100回ものレッスンを受講することになります。

受講費は、初級者向けの「キャンパス留学」が14万円、中級・上級者向けの「育成プログラム」が９万5000円です（2019年度）。学外で100回の授業を受けることを考えれば、とてもリーズナブルな価格設定になっているかと思います。また年間でこれだけの授業数を受講することになるため、1年間のプログラムを終えたときには受講生の多くの英語力が飛躍的に伸びています。とりわけ中級・上級者向けの「育成プログラム」受講者の上達は、目を見張るものがあります。海外に留学したいけれども、さまざまな理由で留学が難しいという人には、おすすめのプログラムです。「育成プログラム」を受講するためには、TOEIC600点以上などの条件がありますが、英語で履歴書を書いたり、プレゼンをしたり、就職後に活かせるスキルを身につけることができます。４技能（話す、聞く、書く、読む）をすべて習得できるので、海外の語学学校と同じ水準の授業を受けることができます。TOEICが100点伸びたと話してくれた受講生もいました。私自身間近で接していて、受講

生のスキルが飛躍的に伸びてゆく姿をみて驚きました。空きコマを使って、自身でスケジュールを組むことができるのも魅力です。

またフリートークのプログラムも用意されていて、こちらは無料で参加することができます。愛大の先生方が担当されていて、英語以外にも中国語やフランス語など多言語と触れ合うことができます。授業中に聞けなかった質問なども、フリースタイルで尋ねることができますよ。またフリートークのプログラムは、各レッスンへの参加が毎回自由なので、来られるときだけ参加することができます。有料プログラムと異なり、時間帯が決まっています。正規の授業数が多い１年生はあまり活用できないかもしれませんが、授業スケジュールに比較的余裕の出てくる２年生以降の皆さんには、ぜひいらして欲しいと思います。就活の終わった４年生の中には、せっかくの機会だからとすべてのフリートークに参加される学生もいました。フリートークのプログラムは語学のブラッシュアップだけでなく、異文化理解を深め、外国の方とコミュニケーションを取る方法を、自然と身につけられるようになると思います。

Q．有料プログラムや無料プログラムなど、さまざまな授業が展開されているのですね。日比さんは、実際に担当者として携われてみて、どのような手ごたえがあったと感じていらっしゃいますか。

A．グローバルラウンジと聞くと、語学のみに力を入れているというイメージを持たれるかもしれません。もちろん皆さんのスキルアップのために複数のプログラムを用意していますが、私自身はグローバルラウンジの最大の魅力は、フリースペースを利用しながら普段はなかなか出会うことのできない他学部他学科の友だちと知り合い、学年の異なる先輩や後輩と留学の情報交換をしたり、海外に目を向けながら自由に意見交換ができる点ではないかと思います。

海外に視野を広げたくても、どこから情報を調べていいのかわからず、漠然と留学したいという思いだけを抱いて終わってしまう人も多いのではないでしょうか。グローバルラウンジでは、実際に留学した先輩の話を聞いて、よりリアルな海外の情報に触れることができます。また、日本人同士だからこそ共有できる「海外あるある」や、海外から見た日本、日本のスタンダードと海外スタンダードのギャップなど、異文化事情を、日本の先輩から教えてもらえることもできるのです。もちろん私もお役に立てれば幸いです。

Q．日比さんも留学経験者でいらっしゃいますね。留学には語学力以外にも、ビザの取得や情報収集など、実務的な準備が大変だったことと思います。留学を経験されて、ご自身どのような変化があったと感じられていますか。

A．私は大学２年生のときに１年間オーストラリアのゴールドコーストにあるボンド大学に留学しました。海に近い、自然の多く残るすてきな場所でした。しかし留学経験者の生の体験記を聞く機会が少なく、グローバルラウンジのような場所があったら、随分違っていたと思います。

留学を経験してみて、もちろん英語力がついたことで自分自身の成長や自信に大きくつながったと感じています。しかしそれ以上に、それまで育ってきた日本を基準とした価値観や習慣・文化とは異なる文化に触れられたことが、より大きな経験となったのではないかと思います。よく言わ

れることですが、黙っていても他人に自分の気持ちが自然と伝わるというのは日本的な発想であって、欧米の価値観とは異なります。オーストラリアでは自分の意見をはっきり伝える必要がありましたし、なぜそのように思うのか、説明をすることがとても大切でした。

2019年４月に開かれた留学生のウェルカムパーティー集合写真

留学先ではオーストラリア人だけでなく、さまざまな国籍の学生と出会いましたが、彼らの多くが自分の意見を強く主張します。自分の意見をはっきりと伝え、自らを主張する力を養うことで語学力もまた上達し、言語習得の近道になることを学びました。さらに彼らの人間性を理解し、考え方を理解し、文化を理解することで、物事に対する視野を広げることができました。留学してみて、そういったことに気づけたこと、自分の気持ちを伝え、相手を理解するためにコミュニケーションを取ろうと積極的になることが、本当に重要だと痛感しました。

皆さんも間違いを恐れず、失敗から学ぶ姿勢を大切にして、語学習得・異文化理解を深めてください。グローバルラウンジを活用して、一人でも多くの学生さんに、そのような体験をしてもらえたらと思っています。

Q．積極的にコミュニケーションをとるという姿勢が重要なのですね。ぜひ学生の皆さんにも、臆さずグローバルラウンジに足を運んでいただければと思います。とはいえ、最初の一歩はなかなか難しいのではないでしょうか。行ってみたいけれど、グローバルラウンジに入室する勇気がない学生さんはどうすればいいですか？

A．グローバルラウンジの開室時間は平日朝９時から夜７時までで、授業のないお昼時間も含め、開いています。授業に参加することを目的とせずに、まずは軽い気持ちでお昼ご飯を食べにいらっしゃいませんか。じつは昼食をここで食べている学生さんは多いのです。グローバルラウンジは開室して間もないのでとてもきれいですし、間仕切りもなく開放的なスペースとなっています。本当に気持ちのいい場所です。ここで一緒にお昼を食べながら、よくグローバルラウンジを利用している先輩と話をしてみると、自分の興味がよりはっきりしてくるかもしれません。

なかなか先輩に声をかけづらいという学生さんには、私のほうから背中を押して輪の中に入ってもらうこともありますので、安心していらしてください。とはいえ、年度の終わり頃には、顔見知りの学生同士で話に花を咲かせていることも多いので、ぜひ新入生が多くやってくる年度始まりの春学期にいらしていただくことを、おすすめします。

外国人留学生も利用しているので、現地の話を聞いてみるなど、気軽に話をすることもできますよ。さらに、国際交流課が企画する外国人留学生のためのウェルカムパーティー（４月・９月）とフェ

アウェルパーティー（７月・１月）にも参加できます。協定留学生をサポートしてくれる愛大のピアサポートメンバーが、毎回ゲームや日本文化体験など楽しい企画を考えてくれています。ピアサポートのスタッフも募集しているので、ぜひご興味があればピアサポートにも参加してください。

Q．今年のウェルカムパーティーも盛会だったようですね。

ウェルカムパーティーでは、留学生との楽しい交流の時間を持つことができました。

A．はい。今年は４月18日のお昼にウェルカムパーティーが開かれました。新学期が始まって間もないなか、ピアサポートの学生スタッフが一生懸命準備をしてくれて、海外からの留学生と交流を深めることができました。立食形式の昼食をみんなで食べたあと、伝言ゲームやあてっこクイズなどをして、本当に楽しいひと時を過ごすことができました。50名近くの参加があり、まだ大学に慣れない留学生にもとても喜んでもらえました。

Q．最後に学生さんに一言お願いします！

A．グローバルラウンジの活動をあまりよく知らないという方が多いと思いますので、まずは興味を持っている学生さんにグローバルラウンジの存在を知ってもらえれば嬉しいです。国コミ以外の学生さんも多くここを利用しています。学部や学年、国籍の垣根を越えて多くの知り合いができるのが、グローバルラウンジの魅力です。外国語の苦手意識など気にせず、語学力以外のことも学べるので、ぜひ人生の選択肢を広げるつもりで、いらしてください！

ご自身も大学２年生のときにオーストラリアへ留学され、１年間を過ごされた日比さんは、語学よりもコミュニケーション力が海外の人と話す際には重要だとおっしゃっていました。英語が堪能な日比さんにとっても、「話したい」という気持ちがなければ英語力は無用の長物になってしまうそうです。勇気のある一歩を、ぜひ愛大のグローバルラウンジで踏み出してください！

グローバルラウンジについての
お問い合わせは愛知大学国際交流課まで！

愛知大学　国際交流課

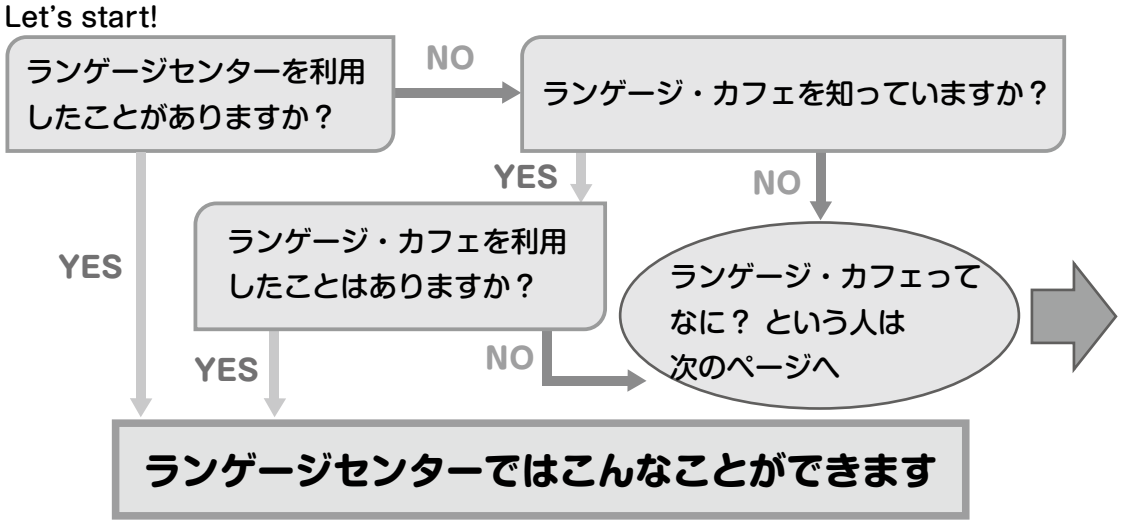
E-mail:inted@aichi-u.ac.jp

URL:http://www.aichi-u.ac.jp/global/inted

グローバルラウンジで業務を担当されている日比菜月さん
（※日比さんは 2019 年 4 月にご退職されました）

Language Center in Toyohashi

豊橋キャンパス（３号館 1F）
開室時間 / 講義期間　平日 9：10 ～ 19：00　　講義期間以外　平日 9：10 ～ 17：00　土曜日　9：10 ～ 12：30



- ランゲージ・カフェに参加できます。（詳しくは次のページへ）
- 会話 OK なので、グループ学習に利用できます。トランプ、ボードゲーム等もあります。
- ひとりでの自習も大丈夫です。LL メディアルームでも自習できます。ただしメディアルームでは会話厳禁です。
- ランゲージセンターは飲食可能です。
- 外国語関連の書籍、検定対策本など２冊まで、２週間借りることができます。
- 様々な国の映画やドラマの DVD がメディアルームで視聴できます。
- LL 教室が空いていれば、その一角にあるシアタールームを使って映画を見ることができます。
- 「授業やゼミでみた映画がもう一度見たい」。そんな時は購入を希望することができます。（都合により、購入できない時もあります。）
- 前期には過年度の NHK 語学講座のテキスト・CD を無料で希望者に配布しています。
- 英字新聞、雑誌（The Japan Times、Mainichi Weekly、TIME）が読めます。
- パソコンでレポート作成～印刷、e-ラーニングも学習できます。（印刷用紙は自分で用意。）

ランゲージセンター

LL メディアルーム

シアタールーム

Language Café

講義期間中の昼休み　　12:40 ～ 13:15（ランゲージセンターにて開催）
英語…月火水金　中国語・・火　グローバル・・水　フランス語・・金

ランゲージ・カフェでは昼休みにネイティブの先生や友達と英語やフランス語、中国語で弁当を食べながらおしゃべりが楽しめます。今年から始まったグローバル・カフェは、外国人留学生と日本人学生が交流するカフェです。コーヒー、紅茶などの飲み物を用意しています。ご自由にご利用ください。

ランゲージ・カフェ Q&A

Q. 語学はあまり得意ではないですが、参加できますか？

A. もちろん参加できます。身近な話題が多いので、誰でも話せます。また、グローバル・カフェは留学生と日本語で話します。楽しいのでぜひ参加してみてください。

Q. お弁当を持っていませんが、どうしたらいいですか？

A. コンビニや生協で買ってきてもいいし、カフェが終わってから食べる人もいます。

English Café

Q. 毎日行かないといけないですか？

A. 授業ではないので、都合のつく時に参加すればいいです。

Q. 続けて出席すると何かいいことがありますか？

A. もちろん語学力が向上します。Communicative English の授業ではカフェの出席カードが配られます。カフェで先生のサインをもらって集めると、ボーナスポイントがもらえるようです。

Q. 飲み物は何がありますか？

A. コーヒー、カフェ・オレ、紅茶、ココア、緑茶。夏には冷たい麦茶も用意します。すべてセルフサービスです。

Q. 何年生、どの学部が多いですか？

A. 英語は Communicative English の授業で勧められるので１年生が多いです。２年生以上も参加しています。文学部、地域政策学部の学生が多いですが、短大生も参加しています。学部以外の友達ができる良い機会です。

Global Café

☆その他分からないことがあれば、カウンタースタッフにきいてください。

留　学　体　験

ハワイ大学短期語学研修での経験

短期大学部２年　木村　文音

Judiciary Center

私は２月に短大が実施している、９日間のハワイ大学短期語学研修に参加しました。事前講義の授業を通してハワイの歴史や文化を学んで研修に臨みました。

現地では、月曜から金曜までの５日間、ハワイ大学のリーワード・コミュニティ・カレッジ（以下､LCCとする）で英語の授業を受けました。毎回LCCの学生が私たちの英語授業に参加し、一緒に楽しく活動しました。LCCの日本語の授業に私たちが参加する機会もありました。どの授業もグループワークが中心で話す機会がたくさんあり、LCCの友達をたくさん作ることができました。授業の後や週末のフリータイムにはLCCの学生たちとワイキキや、アラモアナでショッピングなどを楽しみました。私はアメリカ文化に興味があり、相手は日本文化に興味を持ってくれていたということもあってとても会話

ダイヤモンド・ヘッド

が弾みました。

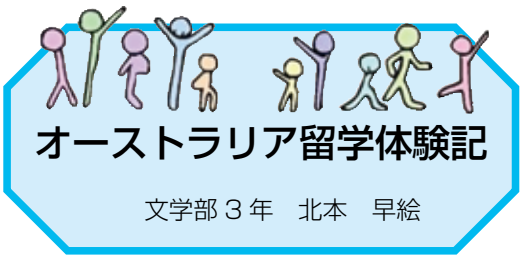
最終授業日には、私たちが中心となってLCCの学生に日本文化を体験してもらうというイベントを行ないました。私は自分の得意な書道をLCCの学生たちに紹介し、体験してもらいました。私が手本の字を書き、その後LCCの学生に実際に筆を持って書いてもらいました。イベント後にLCCの先生に「（手本が）とても上手だからとっておくね」と言っていただけたことがとても嬉しかったです。

研修について特に印象に残っていることは２つあります。１つ目はJudiciary Centerで行った模擬裁判です。短大の研修事前講義で毎回裁判の台本を読んで練習をしていたものなのでとても思い出深いです。２つ目はダイヤモンド・ヘッドに登ったことです。授業を通して仲良くなったLCCの友達や先生たちと一緒に登頂できた

ワイキキビーチ

ことがうれしかったです。ここでハワイの人たちとの距離が一気に縮まった気がしました。

私はこの研修で初めて海外へ足を運びました。話で聞いて分かっているつもりでも、実際に足を運んで初めて理解できることがたくさんあるということに気づきました。そして自分の英語力のなさも痛感しました。しかし、大事なのは、たとえ適切な英語表現が浮かばなくても単語を組み合わせたりして、何かしらの形で相手に伝えようとする気持ちだということをハワイでの経験から学びました。また、今回の研修は英語学習に対するモチベーションにつながりました。ハワイで過ごした９日間は私にとって一生忘れられない思い出です。



オーストラリア留学体験記

文学部３年　北本　早絵

私は短期語学セミナーを利用し、オーストラリアのブリスベンにあるクイーンズランド大学に5週間留学しました。自然豊かな環境でとても気持ちがよい場所でした。

留学での一番の思い出はホストファミリーと過ごしたことです。私のホームステイ先には母親と12歳の息子、８歳の娘、別の大学に通う日本人のルームメイトがいました。基本的に毎晩みんなで夕食を食べていました。その際マザーは「今日どうだった？」と聞いてくれました。はじめの頃は、「○○に行った。」「○○を見た。」などと簡単な返事しかすることができませんでした。しかし、毎日繰り返していくうちにもっと自分の言葉で伝えたいと思うようになりました。訪ねた場所に何があったのか、どう感じたのかなど詳しく説明しようと試みました。

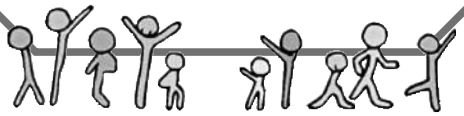
マザーとは日本人女性の仕事と家事の両立の大変さや将来自分たちがしたいことについて、話すこともありました。もちろん、日本語のように、スラスラと話せるわけではありません。初めのうちは語彙力不足で言葉に詰まることもありました。それでも、簡単な表現に言い換え、自分のできる範囲で伝える努力をしました。家族と過ごした時間は語学力の向上に役立ったと感じています。確かに、学校で文法や正しい表現の仕方を学ぶことは大切です。しかし、ファミリーとの会話はリアルな環境での会話です。間違いを恐れず話し続けたことは、とても楽しく自信につながりました。

また、マザーの提案で夕食に手巻き寿司を作りました。オーストラリアには生の魚を食べる文化はないため、具材はアボカド、チキン、きゅうりでしたが、子どもたちにとても好評でした。ファミリーと一緒に日本の食を通じて交流ができたことは貴重な経験になりました。子どもたちには宿題の回答を確認してもらったり、テスト前にwritingの添削をしてもらったりしました。私を本当の家族のように暖かく迎え入れてくれたことに感謝しています。

留学では、旅行とは違い現地の人々と同じ生活を送ります。バスやシャワーの使い方、生活リズムや食事の違いなど戸惑うことも多くありました。ですが、生活をするからこそ分かることも多く、オーストラリアと日本のそれぞれの良さに気づくことができました。５週間という短い時間でしたが日本では体験できない留学生活を過ごすことができました。私は再びホストファミリーに会えるよう、現在も語学学習に励んでいます。

カナダでの経験

国際コミュニケーション学部２年
尾嵜　康平



カナダ海外短期語学セミナーに参加して、印象に残っていることが２つある。１つめは、カナダの人々、特にキングストンの人々は日々の生活の中でのコミュニケーションが多いことである。コミュニケーションでも２種類のパターンを経験した。１つめは､バスや道路ですれ違った人と挨拶や会話をすることだ。会話はいわゆる「short talk」で、天気やテレビ番組、アイスホッケーなどのスポーツについて話した。日本人の私からすると、最初その光景は驚くべきものに感じられた。しかし実際に話してみると、想像以上に気を遣わず、カナダと日本の違いやアイスホッケーについて教えてもらったりするなど、見ず知らずの人との会話を楽しむことができた。楽しさに加え、自分の英語が通じる嬉しさと、ネイティブスピーカーの早めの英語を理解できた達成感も味わえた。２つめは、バスを乗る際に「Good morning.」､「Hello.」などの挨拶を言ったり、降りる際に「Thank you.」と言ったりすることだ。日本ではあまり見かけないこういった声かけも、カナダではごく自然なことだった。郷に入っては郷に従えということわざに従い、私もバスを使うときは、挨拶やお礼を言うことにした。挨拶を言わないより言ったほうがバスを使った日は清々しく生活できたので、日本でもバスを使う際はお礼を言うよう心掛けたい。

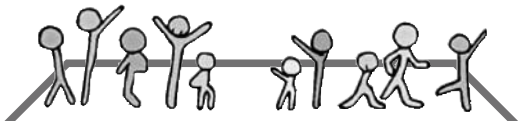
キングストンの市庁舎

トロントで見つけたカナダのモニュメント

２つめは、事前学習や人伝てに聞いた情報は鵜呑みにしないほうがいいということだ。私がホームステイ先で驚いたことは、彼らは家の中で靴を履かずに生活していることだった。西洋、欧米圏の人々は家の中で靴を履いて生活しているというステレオタイプを持っていた私にとって、このことは大きな衝撃だった。また、海外は日本と比べて治安が悪いという情報に怯えてあまり夜間に外出はしなかったが、アイスホッケーの試合を見に行った時、治安が悪いといった雰囲気を感じることはなかった。治安が悪くないから周囲に注意を払わないのではなく、必要最低限の注意をすることが大切だと感じた。これらのことから、予め得た情報を鵜呑みにすると、楽しめることも楽しめなくなり、トラブルに巻き込まれることもあると学ぶことができた。

今回の語学セミナーを通して、インターネットの情報だけでは得ることができない現地の情

報、日本にはない文化の体験、参加前より広がった視野など、今後役に立つものを多く手に入れることができた。それだけでなく、一生忘れない素晴らしい思い出ができた。これらを活かして今後の英語学習、日常生活を充実させようと思う。



ハンザ都市・ブレーメン

文学部４年　小林　裕之

ブレーメンという街を知っていますか？

ドイツ北部にあり、ドイツにある16の州のうち、一番小さな州（ブレーメン州）の州都です。人口はおよそ56万人です。

下の写真は、旧市街の中心地である、マルクト広場です。12月になると、ここではクリスマスマーケットが開催され、とても多くの地元の人、観光客がここを訪れます。

愛知大学が提携している、ブレーメン経済工科大学（Hochschule Bremen）はこのマルクト広場から歩いて約10分のところにあります。そのため、そこの学生は、授業の空き時間や授業後になると、よくここへ行き、買い物をしたりなど、それぞれが楽しんでいます。そして、ブレーメンと聞いて、一番に思いつくのは「ブレーメンの音楽隊」だと思います。有名な像なので、とても大きなものとイメージするかもしれませんが、とても小さく、市庁舎の横に立っています。実際に、自分もこの像を見つけるのに時間がかかりました。この音楽隊像だけではなく、ブレーメンにはたくさんの有名なものがあり、例えば、Beck'sというビール、HACHEZというチョコレート、ドイツサッカー･ブンデスリーガに所属するWerder Bremen。また、このチームには日本代表･大迫勇也選手も所属しています。

個人的には、ブレーメンは大きすぎず、１年間の留学で訪れるにはぴったりだと思います。また、ブレーメンから電車で約１時間半のところにハンブルクというドイツ第２の都市があります。

ドイツ最大の港町でもあり、たくさんの観光客が訪れる、とてもおすすめしたい都市です。

ここで紹介できるのはごくわずかで、ブレーメン、さらにドイツにはまだまだたくさんの魅力的な場所があります。また、90日以内であればビザ無しで滞在することもできるので、短期語学留学など行きやすい国だと思います。若い時に海外を経験することは、とても有意義なものになると思うので、迷っている方・少しでも興味がある方は、「今」を充実させるためにも思い切ってチャレンジしてみてください！

充実したフランスセミナー

国際コミュニケーション学部３年
中川　桜

私達は２月２日に日本を出発し、３月２日までフランスのオルレアンという都市で、オルレアン大学に通いながら過ごしました。

フランスでの１ヶ月は、とても楽しく、多くの事を得た充実した１ヶ月間でした。オルレアンという街は、雰囲気も良くお店も充実しており、ショッピングなど楽しく過ごすことが出来ます。また、フランスセミナーには、フランスだからこそ体験できることがたくさんありました。まず、１ヶ月の始まりと終わりに、学校の先生とホストファミリーを交えたレセプションパーティーが開かれました。正装をし、ワインを片手に友達やホストファミリーと話したりします。また、フランスセミナーにはエクスカーションが付いており、サン・マロとモン・サン・ミシェルを訪れることができました。週末には、パリへ遊びに行ったりでき、私はパリのディズニーランドにも行きました。語学力に関しては、確かに英語に比べたら、学習歴も短く、自分の思いや情報を伝え、理解するのに時間がかかりました。けれど、その分伝わった時の嬉しさ、そしてそれによって大きな自信がつき、１ヶ月という短い期間でも他のセミナーに負けず劣らず、語学力が大きく向上しました。ぜひこれを読んで興味を持たれた皆さんにもこのフランスセミナーをお勧めしたいと思います。オルレアン大学での授業が不安という人も大丈夫です。フランスセミナーは、授業は愛知大学のセミナー参加者のみのクラスなので分からないところがあってもすぐ友達と助け合うことができます。また、先生もわかりやすいフランス語で丁寧にしっかり説明してくださるので心配はいりません。他にも、フランスセミナーは約 10 ～ 15 人と少人数なので、一緒に参加したみんなと仲良くなれます。それだけでなく、フランスで日本語を学んでいる高校生のところを訪れたり、オルレアン大学の学生と話したりと、様々な交流もできました。

私自身、拙いフランス語でも１ヶ月楽しく過ごすことができて、それが私にとって大きな自信となりました。このフランスセミナーを通して、大きく成長することができたのではないかと思っています。苦労した事もあったけれど、最後に残るのは楽しく充実していたなということです。英語圏に比べてフランスは、なかなか多く行ける所ではないと思います。ぜひこの機会にこのフランスセミナーに参加してみてください！

江蘇杯中国語スピーチコンテスト

現代中国学部　藤森　猛

2018年12月15日、名古屋校舎グローバルコンベンションホールで、第４回「江蘇杯中国語スピーチコンテスト」が行われました（愛知大学、江蘇国際文化センター、南京大学主催）。当日は、午前中に高校の部、午後に大学の部が実施され、審査を通過した中部東海地区の65名の大学生が参加しました。大学の部では（１）初級班（学習歴１年未満）（２）中上級班（学習歴１年以上）の２部門に分かれてコンクールが行われ、本学の学生も多数参加して、本年も受賞者を出すことができました。本稿では、コンテストに参加する際の中国語学習の留意点をまとめます。

（１）初級班（大学１年生向け）　中国語の「自己紹介」と「朗読」がコンテストの内容となり、発音と内容の合計点で審査されます。発音は①ピンインが正確であることが条件になります。特に日本人が苦手な zhi, chi, shi, ri のそり舌音と母音の e の音をしっかりと発音することが重要です。さらに②ポーズ（フレーズ、文中の小休止）、③強弱（強く、ゆっくり読む部分）を入れるとメリハリがつきます。

（２）中上級班（大学２～４年生向け）　中国語の「スピーチ」、審査員の質問に対する中国語による「回答」がコンテストの内容となり、審査では①スピーチ、回答とも正確なピンインの発音が絶対条件になります。一つ一つの単語の声調（イントネーション）が完璧であり、かつ②ポーズ、③強弱が加えられ、話し方が流暢であることが求められます。ピンインの練習は、どのコンテスト参加者も行っているので、②③の練習の習熟度で差がついてきます。また審査員による中国語の質問の内容は、中国に関する事（中国や江蘇省の地理、習慣、食事、旅行）と中国語の学習に関する事（普段の勉強法、留学、中国語の特徴）などになります。ですから質問を想定して例えば中華料理（江蘇料理）を試食すること、江蘇省の地理や文化を勉強することも大切だと思います。なお、コンテストの際の、演劇的なパフォーマンスは審査では求められませんので、普段の中国語学習の成果が試される機会となります。

2018 年江蘇杯（大学の部）集合写真（2018 年 12 月）［写真提供：愛知大学国際交流課］

自分を成長させてくれた江蘇杯中国語スピーチコンテスト

現代中国学部３年
浅井 皐

私は、人前で話すことが苦手でした。入学したからには語学が上手くなりたい、以前の自分を少し進歩させたい、そんな思いを持ちながらも、外国語でしかも人前で話すのはハードルが高く、江蘇杯中国語スピーチコンテストに参加するつもりは全くありませんでした。

しかし、先輩の美しい中国語の発音･流暢さ、そして自分の意見を述べようとする前向きな姿勢を見て感動しました。なぜこんなに上手なのかと尋ねてみると、江蘇杯に参加したしたことがきっかけであることを知りました。当時１年生だった私は、勇気をだして江蘇杯の初級班である朗読部門に参加する決心をしました。

そこからは苦難の連続でした。まず、正しい発音の特訓に、抑揚・暗誦と、１つの発表にやることのオンパレード、賞を取るには程遠いものでした。しかし、必死に練習したおかげで１等に入賞し、２年生の夏には８日間の文化旅行に参加しました。初めて見る南京は歴史的建造物が多いと感じ、日本との繋がりの深さを身に染みて感じました。

この経験を経て、２年生の冬には２回目の江蘇杯（中上級）のスピーチ部門に挑戦しました。しかし､いざスピーチ原稿を書こうとすると自分の想いや経験を表現することが難しく、また、表現するには自分の経験の圧倒的少なさを思い知らされました。大会までは原稿を毎日覚えるまで読み込んだのはもちろんのこと、発音が悪い箇所、覚えていない箇所があれば、その部分を徹底的に読み込みました。家で・電車で、時には登下校中にも暇さえあればその場で確認を行っていました。その時、力になってくれたのは何人もの外国人の友達です。口の動きの確認や感情の込め方も、熱心に教えてくれました。

本番当日、自分のことに集中しつつ、出番以外は出場者の良い部分を少しでも多く吸収しようと見ていました｡複数の発表者を見ていると、練習してきた自分のベストをしっかり発揮しきれるか不安になってきました。しかし、壇上に上がった際、みんなが私のほうを見て一生懸命自分のスピーチを聞いてくれていることに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

納得のいく結果にはまだ遠いですが、消極的だった自分を変える大きなきっかけになったこと、継続的に練習に励んだこと、自分が伝えたい思いを伝えるために努力した姿勢は絶対に消えない、誰かの中に届くと実感しました。

江蘇杯中国語スピーチコンテストは、目標にむかって段階的に積極的に取り組むことを教えてくれました｡このような経験ができたことを、誇らしく思っています。

2018 年 8 日間江蘇省文化旅行（2017 年江蘇杯受賞者）

ことばの旅
―「自由」という語について（補）

経済学部　葛谷　登

拙文を敬愛する先生のご高覧に供したところ、思いがけなくも貴重なご教示をいただきました。中国思想がご専門の愛知大学名誉教授の先生からは鈴木大拙の禅的解釈は『荘子』によるものであるとの、静岡大学名誉教授の英文学がご専門の先生からはシェイクスピアの作品では多くの場合 free という語はなにかに捉われていない状態を指すとの、行政法学がご専門の法律家の先生からは旧制四校時代に J.S. ミルの On Liberty が教科書（恐らく英語の授業）であったとの、福祉がご専門の先生からは敗戦により豊橋の予備士官学校（今の愛知大学豊橋校地）から解放されたが、「～への自由」が見出せず、虚脱の状態になられたとか、というものでした。

慶應義塾大学名誉教授の先生からは升田準子「『自由』小考～キリシタン版に見られる用例をめぐって～」（『キリシタン文化研究会会報』105号、1995年）という論考を教えていただきました。このような題で書く場合には夙に読むべき基本文献である事を知り、冷汗三斗でございました。弥縫にもならぬと思いますが、少し補わせていただけたらと冀うしだいです。

高校時代に國弘正雄先生の『英語の話し方』（サイマル出版）や『国際英語のすすめ』（実業の日本社）を通して東洋思想を達意の英語で語る鈴木大拙のことを知りました。

> 私はいま痩躯鶴のごとき大拙老が、コロンビア大学の満場の学生や教授連を前に、原稿らしいものを持たずに、若干古めかしい、しかし格調の高い英語で、東洋人の心を説いておられた姿を思いだしている。どこをどう押せばアメリカ人が click するかを熟知しておられたのであろう。冗談や軽口も適宜まじえながら、満座をわかせることもしばしばであった。 104頁

ほぼ同じころ中央公論の「日本の名著」シリーズの中の橋本峰雄責任編集『清沢満之　鈴木大拙』を手にし、大拙の「日本的霊性」を読みました。いつしか大拙の文章に魅かれるようになりました。その後、大拙の文章を折に触れ読むようになり、気がついたら全集は新旧の二つを持っておりました。

今にして気づかされることは、大拙は東洋思想のみならず、西洋の思想、例えばドイツ神秘思想の著作、英文学の作品、英訳聖書なども相当読み込んでいるということです。であればこそ、米国人の琴線に触れる英語の講義が出来たのではないでしょうか。

また高校時代は大学では梵語を勉強して仏典を原語で読んでみたいと思っておりました。今は梵語の文法書と辞典はありますが、文法などは初歩以前のままです。

二十年ほど前に新潮カセットライブラリーの中の「最も東洋的なるもの」と題した大拙の講演のテープを聞きました。そこで「自由」という語が取り上げられ、はっとした思いになりました。読書中この語に当たると気になるようになりました。そしてちょうど昨年の半ばごろ、これまでの散漫な読書の果てに自分の中にあった「自由」の語の疑問が解けたような思いになったのです。拙文はいわば個人的な読書ノートを臆面もなく白日の下に曝したものであるというわけです。

それではまず語の成り立ち～化学の構造式のようなもの～を見てみたいと思います。

「自由」＝「自」（人称代名詞）＋由（前置詞）

代名詞でなければ、「由」の目的語は後ろに来ます。

その次に語の原義～動詞の原型不定詞のようなもの～を見てみたいと思います。「由」という語はこの場合、実質的に主語を指し示すものだと思われますので、「自由」という語は自分が主体になることが原義になるのではないかと思われます。

この「自由」という語は原義に基づいて様々なところで用いられます。その結果、様々な用例が登場します。

それを個人レベルで考えてみたいと思います。煩悩に塗れた俗人について用いられると、そのような欲望多き者が主体になるのですから、「自分勝手な」という意味の用例が生まれます。しかし修業を積んだ禅僧について用いられると、「随処に主となる」（随処作主）―『臨済録』の中の言葉（筑摩書房『臨済録』、56、74頁）―というような意味の用例が出て来るのではないでしょうか。

ところでヨーロッパの言葉の訳語としての「自由」という語が用いられたのはキリシタンの時代であるようです。前掲升田論文には興味深い記述があります。

> ・・・キリシタン時代初期にはキリスト教概念を伝えるに際して、日本人に馴染みやすい仏教用語による教理説明がなされたから、まず「解脱」が用いられたものと思われる。ところが後期判では、「解脱」はまったく姿を消してしまい、「自由」のみが用いられている。 19－20頁

いまわたしたちは「解脱」という語は仏教の言葉、「自由」は仏教の言葉ではないような気がしますが、どちらも仏教の中にある語ですが、キリシタン文献において「解脱」という語より「自由」という語が「キリスト教教義を託す言葉」（20頁）として多用されるようになったようです。

それだけでしょうか。「自由」と「解脱」の音に着目してみたいのです。ジ＋ユ＋ウという音は口の開閉が狭＋狭＋狭というように狭い音が連続しています。他方、ゲ＋ダ＋ツは狭＋広＋狭というように真ん中は口の開きが広くなります。また舌もダとツは口蓋、歯茎、或いは歯に当てなければなりません。舌の動きがそれだけ複雑になります。多用される語については言い易いことも重要です。「自由」のほうが発音しやすいのです。

また同論文には次のような記述もあります。

> ・・・キリシタン版に見られる「自由」と、禅宗でいう「自由」との親近性は新村出を初めとして多くの研究者が指摘するところである。 13頁

＊ 同論文（25頁）に挙げられた津田左右吉の「自由といふ語の用例」という文章（岩波書店『津田左右吉全集』第20巻、75頁）には「他から制約や拘束をうけないこと」の意味で用いられている東晋の『修行道地経』（春秋社『仏典解題事典』、75－76頁）の例が紹介されています。

また前稿でキリシタン文献の翻訳にあたり禅宗からカトリックに入った人がいるのではないかと書かせていただいたことが、誤りではないことを知り、胸を撫で下ろす思いです。津田左右吉の「自由といふ語の用例」という文章を読んでもその感を深くしました（80頁）。臨済宗の僧侶であったハビアンがその代表的人物ではないかと思われます（井手勝美「ハビアン」教文館『日本キリスト教歴史大事典』、1127－1128頁）

ここでもう一度自分なりに確認させていただきます。

鈴木大拙の主張に従えば、「自由」という語は積極的、肯定的な物言いであり、‘freedom’や‘liberty’という語は消極的、否定的な物言いとなるでしょう。「解脱」という語もまた消極的、否定的な物言いです。「自由」と‘freedom’や‘liberty’では言葉の位相が逆さまの関係に

あります。そうであれば、どのような訳語を持って来ようともこの両者の間には埋めがたい隙間が生じます。その意味で‘freedom’や‘liberty’の訳語としては「解脱」のほうが相応しかったのかも知れません。

ところで「解脱」という語には暗に束縛するもの～例えば、煩悩～が前提されています。‘freedom’や‘liberty’と言う語にも暗に束縛するもの、例えば、罪 sin ～が前提されています。つまり「解脱」や‘freedom’や‘liberty’という語を用いるとき、話者は束縛するものを言葉に出さないとしても心の中に思い浮かべています。

しかし「自由」という語は自分が主体になるという意味ですから、そのような束縛するものを前提とするものではありません。大まかに言えば、自己のことが念頭にあるだけで、他者のことが考慮されていないように感じます。

丸山眞男「超国家主義の論理と心理」の中に、「現在なお国民はその呪縛から完全に解き放たれてはいないのである。」（下線、筆者注。以下同じ）（未来社『増補版　現代政治の思想と行動』12頁 ― この文は『国際英語のすすめ』の中に引用されていたもの（12頁）を通して知りました）という興味深い一文があります。それは次のように英語に訳されています。

> and even today they have not really freed themselves from its hold.
> （Ivan Morris edit., *Thought and behavior in modern Japanese politics,*
> Oxford University Press,1963, p.1）

わたしたちがこの英語を目にしたとき、どのように訳すでしょうか。別段深く考えることなく、「呪縛から自らを自由にしていない」と訳さないでしょうか。両者の日本語を比べると、どことなく前者のほうが表現としてより正確で自然なように覚えます。

最後に新約聖書ヨハネ８章32節「真理はあなたたちを自由にする。」（下線は筆者注。以下、同じ）（新共同訳）の漢訳聖書の箇所を見てみたいと思います。

> 真理必釈爾。（代表訳。上海墨海書館、1858年～一橋大学図書館三浦文庫所蔵）
> 真理将使爾自主。（BC 訳。上海美華書局、1863年～「幕末邦訳聖書集成㉖」ゆまに書房）
> 真理必叫你們得以自由（Union Version、1919年）
> 真理必会使你們獲得自由。（フランシスコ会［思高聖経学会］訳、1968年）

代表訳のみが「解放する」という意味に即して「釈」という語を用いています。

明治に聖書を和訳するに際し、漢訳聖書を参考にしたようです（川島第二郎、土岐健治「初期日本語訳聖書と中国語訳聖書」『聖書の世界』自由国民社、440―454頁）。新約聖書の委員会訳（元訳）は1880年［明治13年］、旧約聖書の委員会訳（元訳）は1888年［明治21年］～ 452頁）。文語訳（1917年［大正６年］～ 442頁）の文は、「真理は汝らに自由を得さすべし」となっています。或いは日本における「自由」という語もまた漢訳聖書の影響を受けた日本語聖書の訳語が関係しているのでしょうか。

‘freedom’や‘liberty’という語は束縛のある状態から束縛のない状態への移行を示す、動的なベクトルを有することばです。消極的に見えてダイナミックです。他方、「自由」という語は束縛の有無を問いません。それは主語のみあって動詞のない未動の状態を表わすことばです。積極的に見えてスタティックです。

いずれにせよ、幕末明治以降に‘freedom’や‘liberty’の訳語として「自由」という語が採用され定着したことは、近代日本が思想形成の跳躍を試みた時、或いはアキレス腱として働いたのではないかと妄想し溜息が出て来るのを禁じ得ないのです。

2018年度（第24回）
外国語コンテスト結果報告

去る2018年11月・12月に名古屋校舎恒例の外国語コンテストが開催されました。第24回を迎えたコンテストも多くの学生たちが参加し、朗読、暗誦、自由作文スピーチ、歌唱など、多様な種目でそれぞれの力を発揮してくれました。結果は以下の通りです。

2019年度第25回も秋学期に開催予定ですので、ぜひ一度参加してみてください！

英　語

開催日時：2018年11月15日（木）14：30 ～

課　　題：自作プレゼンテーション

1位　国コミュ学部3年　小林　純歌
★“The Dramatic Influence of the Words”

2位　国コミュ学部3年　迫田　篤志
“The Infections of Smartphones for Studying Abroad”

2位　法学部2年　長屋　零菜
“Do we really need to use my smartphone now?”

3位　現代中国学部2年　下條　あん
“What studying abroad can teach us”

ドイツ語

開催日時：2018年11月27日（火）18：10 ～

課　　題：朗読“Du oder Sie?”

1位　国コミュ学部3年　林　杏佳

2位　国コミュ学部3年　内田　亜月

3位　法学部1年　田村　隼祐

フランス語

開催日時：2018年11月29日（木）12：30 ～

課　　題：朗読“La corneille et la cruche”

1位　国コミュ学部2年　藤井　祥代

2位　国コミュ学部2年　草野　夢華

3位　国コミュ学部3年　葉柴優理恵

中国語

①対象学部：法・経営・経済・国コミュ学部生

開催日時：2018年11月29日（木）10：45～

課　　題：課題文朗読（基礎／応用）

1位　国コミュ学部4年　石川　春花

2位　法学部4年　徳平　航

3位　法学部1年　井上　拓也

②対象学部：現代中国学部生

開催日時：2018年11月29日（木）15：00 ～

（課題部門）課題：暗唱

1位　現代中国学部1年　森　悠香

2位　現代中国学部1年　横田　万尋

3位　現代中国学部1年　今井ひなの

（自由作文部門）課題：自由スピーチ

1位　現代中国学部2年　下條　あん
★“人和人之间的距离”

2位　現代中国学部3年　勝原　杏衣
“我认识太极拳老师后学到的东西”

タイ語

開催日時：2018年11月20日（火）16：30 ～

課　　題：ラックカンワイトゥの暗唱

1位　法学部1年　柴田　歩

2位　経済学部1年　中嶋　智博

3位　法学部1年　野口　七海

韓国語

開催日時：2018年11月14日（水）12：25 ～

課　　題：自由作文

1位　国コミュ学部３年　　前川のどか

★“한일 애정 표현에 관해”

2位　国コミュ学部４年　　山崎　誓也

“서울의 명소 투어”

3位　現代中国学部１年　　西岡　夢乃

“제가 한국어에 흥미를 가지게 되었던 이유”

ロシア語

開催日時：2018年12月４日（火）16：30 ～

課　　題：朗読または歌唱「ワニのゲーナの歌」

1位　法学部１年　　高橋　歩未

国コミュ学部１年　　伊藤　詩乃

2位　法学部１年　　川原　尚城

経済学部１年　　篠田　凌也

経営学部１年　　斉藤　稔

3位　経営学部１年　　松岡　廉也

経営学部１年　　森崎　聖矢

日本語

開催日時：2018年11月20日（火）12：30 ～

課　　題：自作スピーチ「留学生が見た日本」

1位　協定留学生　　林　晏君

★「招待状を配らないで！」

2位　協定留学生　　孫　兆情

「日本人らしく謝罪しよう」

3位　経営学部１年　　李　朱烘

「日本、知れば知るほど」

3位　協定留学生　　連　杰婕

「挨拶が何よりも大事！」

（全て敬称略。学年はコンテスト当時のもの。）

◆表彰式・発表会◆

2018年12月13日（木）12：30 ～

各部門の１位から３位入賞者への表彰と記念品の授与、講評、１位入賞者のパフォーマンスが行われました。

受賞者たちは各々特色のある発表にお互い刺激を受けた様子で、他部門の受賞者からも歓声があがっていました。

語学教育研究室の HP では、各部門担当教員からの講評と、★印の１位受賞者スピーチ原稿を掲載しています。ぜひアクセスして読んでみてください。

語学教育研究室 HP : http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/contest.html

2019年度　外国語検定試験奨励金のご案内

	名古屋校舎		豊橋校舎	
言 語	試験名称	基準	試験名称	基準
英 語	実用英語技能検定（英検）	準１級以上	実用英語技能検定（英検）	２級以上
	TOEIC	650 点以上	TOEIC	530点以上
	TOEIC S/W	130 点以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	TOEFL iBT	50 点以上	TOEFL iBT	50点以上
	IELTS	４以上		
	国際連合公用語英語検定（国連英検）	B 級以上		
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	３級以上		
	日商ビジネス英語検定	３級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	４級以上	ドイツ語技能検定（独検）	４級以上
フランス語	実用フランス語技能検定(仏検)	４級以上	実用フランス語技能検定(仏検)	４級以上
	DELF・DALF	A1 以上	DELF・DALF	A1 以上
	TCF	100点以上	TCF	100点以上
中国語	中国語検定	４級以上	中国語検定	４級以上
	新ＨＳＫ	３級以上	新ＨＳＫ	３級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	４級以上	ロシア語能力検定	４級以上
韓国･朝鮮語	ハングル能力検定	４級以上	ハングル能力検定	４級以上
	韓国語能力	２級以上	韓国語能力	２級以上
タイ語	実用タイ語検定	４級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1 級	日本語能力（JLPT）	N1 級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上

☆中国語は現代中国学部を除きます。☆ TOEIC は公開テストのみとなります。

受付期間　名古屋校舎　　2020年１月31日まで

　　豊橋校舎　　2019年12月２日～2020年２月20日まで

　　詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。

奨励対象者　学部学生・短大生（協定留学生・大学院生・オープンカレッジ生等は除きます）

〈編集後記〉

今号は、愛大の施設や制度を使っていかに語学力を伸ばすことができるか調査するべく、学内プログラムや施設について特集することになりました。私自身、関係者へのインタビューや寄稿文を通して、我らが愛大の充実した語学学習環境に驚き、大きな発見がありました。携わっている教職員やプログラム参加学生の情熱に胸を打たれました。ぜひ、皆さんも、これだけ多くのプログラムが準備されている愛大の施設・制度を利用し、語学力を向上させ、グローバル社会へと大きな一歩を踏み出していってください！　（関　未玲）

Aichi University Lingua No.14
2019年7月15日発行
名古屋語学教育研究室
豊橋語学教育研究室
〒453-8777 名古屋市中村区平池町４丁目60-6
〒441-8522 豊橋市町畑町１-１
http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/